

令和元年度 事業報告書

調布市福祉人材育成センター

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

第10 調布市福祉人材育成センターの運営

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	調布市福祉人材育成センターの運営 (重点項目)		市	市	○

1 福祉人材の養成

結果の概要

- 昨年度と比べ、資格研修全体の受講者数は142人から130人に下降したが、定員充足率は65%から69%に上昇している。
- 一昨年度から実施している医療的ケア支援者養成研修(特定の者)は今年度2回実施した。障がい者通所施設や訪問介護事業所、放課後等デイサービスの職員が計7名参加した。
- 保育のおしごと相談・面接会には合計92人が参加し、新規に12人が就労した。そのうち5人が保育士としての採用だった。
- 福祉のしごと相談・面接会は合計12事業が出展し、59人が参加。新規に12人が就労し昨年度の3人を大きく上回った。

実績等

○資格研修の参加状況

講義	実習	内容	講師	受講者 (定員)	定員 充足率	修了者
6/12~ 6/15	/	同行援護従業者養成 研修一般課程	・東京都盲人福祉協 会職員2人 ・他外部講師3人	16 (16)	100%	16
6/21 6/22	/	同行援護従業者養成 研修応用課程	・東京都盲人福祉協 会職員2人	16 (16)	100%	16
9/11~ 11/20	10/18~ 11/8	介護職員初任者研修	・調布ゆうあい福祉 公社職員5人 ・調布市ちょうふの 里職員7人 ・他外部講師12人	19 (20)	95%	19
5/25 5/26	6/1 6/8	知的障がい者(児) 移動支援従業者養成 研修(第1回)	・調布市社会福祉事 業団職員4人 ・他外部講師3人	15 (20)	75%	15
12/7 12/8	12/14 12/21	知的障がい者(児) 移動支援従業者養成 研修(第2回)		12 (20)	60%	12
10/19 10/20	10/24~ 11/22	重度訪問介護従業者 養成研修	・調布市社会福祉事 業団職員2人 ・他外部講師3人	7 (15)	46%	7
12/12~ 12/18	/	行動援護従業者養成 研修	・滝乃川学園職員 2人 ・他外部講師7人	20 (40)	45%	17

7/1～ 7/11	7/16～ 8/2	調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修 (第1回)	・調布ゆうあい福祉 公社職員5人 ・他外部講師6人	13 (20)	65%	11
11/18～ 11/28	11/29～ 11/28	調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修 (第2回)		5 (20)	25%	4
8/3 8/4	実地研 修8/5～ 10/25	医療的ケア支援者養成研修(特定の者) (第1回)	・外部講師2人	3 (10)	30%	3
2/1 2/2	実地研 修2/3～ 3/27	医療的ケア支援者養成研修(特定の者) (第2回)		4 (10)	40%	4
合計				130 (187)	69%	124

○資格研修受講者の概況

①参加人数と定員充足率の推移(過去3年)

	平成29	平成30	令和元
同行援護(一般課程)	31(97%)	16(100%)	16(100%)
同行援護(応用課程)	29(91%)	16(100%)	16(100%)
介護職員初任者研修	19(95%)	20(100%)	19(95%)
移動支援	34(85%)	38(95%)	27(67%)
重度訪問介護	10(75%)	9(60%)	7(46%)
行動援護	20(100%)	25(62%)	20(45%)
ヘルパーフォローアップ研修	8(40%)		
家事援助ヘルパー	23(38%)	14(23%)	18(45%)
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)		4(40%)	7(35%)
合計	174(73%)	142(65%)	130(69%)

②令和元年度受講生性別・平均年齢

	男性	女性	平均年齢
同行援護(一般課程)	3	13	54.1
同行援護(応用課程)	3	13	54.1
介護職員初任者研修	5	14	47.5
移動支援	7	20	46.8
重度訪問介護	1	6	57.4
行動援護	8	12	46.8
家事援助ヘルパー	1	17	52.9
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	2	5	43.3
合計	30	100	50.3

③令和元年度新規活動者数(新規・継続)

※新規：福祉職として新たに従事した者、新たに福祉分野で活動を開始した者、他の福祉の資格研修を受講した者

継続：福祉職として継続して従事している者

	新規	継続
同行援護(一般課程)	9	2
同行援護(応用課程)		

第1部 第10調布市福祉人材育成センターの運営

介護職員初任者研修	11	3
移動支援	8	16
重度訪問介護	1	6
行動援護	1	14
家事援助ヘルパー	12	0
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	0	4
合計	42	45

④令和元年度受講生の受講動機（複数回答）

	資格を取得して就労したい	現在の業務に役立たい	介護・障がいについて学びたい	高齢者・障がい者（児）を支援したい	地域の役に立ちたい	その他
同行援護（一般課程）	9	4	8	11	7	4
同行援護（応用課程）						
介護職員初任者研修	15	3	10	5	6	1
移動支援	7	21	17	10	0	14
重度訪問介護	5	4	6	7	6	0
行動援護	2	7	6	5	0	5
家事援助ヘルパー	4	2	3	0	2	0
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	0	7	1	1	0	0
合計	42	48	51	39	21	24

○就労支援事業の概況

日	時間	内容	出展事業所	参加者	新規就労者数
7/21 (日)	13:30~ 16:00	保育のおしごと相談・面接会 (第1回)	13	42	7
1/19 (日)	13:00~ 16:00	保育のおしごと相談・面接会 (第2回)	16	50	5
11/17 (日)	13:30~ 16:00	福祉のしごと相談・面接会	12	59	12
合計			41	151	24

○就職説明会の参加者の現在の仕事

	保育職	福祉職	医療職	調理師・栄養士	学生	それ以外 (無職含む)
保育のおしごと 相談・面接会 (第1回)	14	1	2	1	2	21
保育のおしごと 相談・面接会 (第2回)	24	2	1	2	2	17
福祉のしごと 相談・面接会	0	11	4	0	0	43

○就職説明会の参加者の保有資格（複数回答）

	保育士	初任者	介護福祉士	社会福祉士	看護師	それ以外
--	-----	-----	-------	-------	-----	------

						(無資格含む)
保育のおしごと 説明会(第1回)	18	0	0	0	1	25
保育のおしごと 相談・面接会 (第2回)	23	5	0	1	1	35
福祉のしごと 相談・面接会	3	20	4	6	7	18

分析・課題

- 高齢者家事援助ヘルパー養成研修の参加者は昨年の14人から18人に増加した。市民が参加しやすくするために、資格を取得して就労するという資格研修の位置づけを緩和し、介護を学ぶ第一歩の研修として「介護のおしごと入門講座(高齢者家事援助編)」と名称を変更したことが要因と思われる。
- 高齢者家事援助ヘルパー養成研修修了者のうち、高齢者家事援助ヘルパーとして事業所に登録した者は2名であった。ステップアップを目指して介護職員初任者研修へと進んだ者が6名、高齢者施設に就職した者が3名、ボランティアや地域活動に従事した者が3名、シルバー人材センター登録が1名、保育施設勤務が1名だった(重複回答あり)。高齢者家事援助ヘルパーサービスが市内で十分に展開されていないため、高齢者家事援助ヘルパーとして事業所に登録した者は少ないが、福祉・介護分野で活動を始める人の入り口の研修として機能していることが伺える。
- 医療的ケア支援者養成研修の参加者は合計7名に留まった。利用者自体が少ないことに加え、医療的ケアに取り組む訪問介護事業が増えていないことが要因と思われる。
- 資格研修終了後の活動状況に大きな差異が見られる。介護職員初任者研修や同行援護従業者養成研修、家事援助ヘルパー養成研修では新規の福祉従事者を一定数輩出している一方で、重度訪問介護従業者養成研修や行動援護従業者養成研修で継続就労が多く、後者の研修は福祉従事者のスキルアップを目的とした受講状況になっている。

2 専門性の向上

結果の概要

- 今年度から専門研修が障害福祉サービス等事業所施設運営費の補助要件に定められたため、昨年度よりも研修の問い合わせや申込みが多かった。
- 階層別研修の参加者は50%から86%に大幅に増加した。テーマ別研修の参加者は昨年の91%から81%に減少した。
- 管理職・施設長研修の参加者は昨年の13人から大幅に増加した。参加者の多くは施設長、管理職であるが、就業年数は3年未満から20年以上までと幅広く、経験の差が大きい。
- 調布市作業所等連絡会から障害福祉課に対し、利用者の高齢化が進み介助が必要となる場面が増えており、作業療法士に現場を見てほしいと要望があり、福祉人材育成センターが研修を実施するという形でニーズに応えた。

○「福祉職員のための記録の書き方研修」と「援助職のダークサイドを考える」は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施を中止した。

実績等

○専門研修の参加状況

①階層別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数 (定員)	定員 充足率
7/23 (火)	13:15~ 18:30	階層別研修 福祉職員 初任者研修	①山本雅章氏(調布市福祉 健康部長) ②大村逸子氏(マナー講師)	41 (50)	82%
8/7 (水)	13:15~ 18:30	階層別研修 中堅職員 研修	①山本雅章氏(調布市福祉 健康部長) ②清水有香氏(精神保健福 祉士)	31 (30)	103%
10/23 (水)	13:15~ 18:00	階層別研修 福祉職員 管理職・施設長研修	①山本雅章氏(調布市福祉 健康部長)	23 (30)	76%
合 計				95 (110)	86%

②テーマ別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数 (定員)	定員 充足率
9/14(土)	13:00~ 17:00	発達障がい者支援の基本	新井豊吉氏(福井大 学大学院連合准教 授)	53 (50)	106%
10/15 (火)	18:00~ 20:00	移動・移乗の技術研修	野原健吾氏 伊貝ま ゆみ氏(デイセンタ ーまなびや)	18 (20)	90%
1/31 (金)	10:00~ 16:20	障害のある方の地域生活と それを支える制度やサービ ス	当事者講師3名 障害福祉課職員	18 (30)	60%
2/9(日)	14:25~ 16:05	よい実践をふりかえる	長沼葉月氏(首都大 学東京)	16 (30)	53%
2/21(金)	10:00~ 12:00	発達が気になる子どもの理 解と対応	山中裕子氏(カウ ンセリングステーショ ン・ユー)	42 (50)	84%
3/6(金)	14:00~ 17:00	福祉職員のための記録の書 き方【中止】	保正友子氏(日本福 祉大学教授)		
3/13(金)	18:00~ 20:00	援助職のダークサイドを考 える【中止】	結城俊哉氏(立教大 学教授)		
合 計				147 (180)	81%

分析・課題

○階層別初任者研修について、新卒の職員と多職種から転職した職員ではニーズが異なるため、内容については今後検討したい。

- 障がい者施設利用者の高齢化が進む中、安全にサービス提供できるように介護技術を学びたいというニーズがあるため、今後も「移動・移乗の技術研修」を実施したい。
- 中止した「福祉職員のための記録の書き方」と「援助職のダークサイドを考える」研修は受講したいというニーズが多いため、次年度中に実施する予定。

3 市民参入に向けた普及啓発

結果の概要

- ふくしの窓や市報、ホームページに研修案内の記事を掲載し、福祉分野への市民の参入を図った。
- ホームページにて当センター主催の研修と他機関主催の研修についての情報を一覽的に提供した。また、市内の福祉・保育事業所の求人情報を掲載し、事業所と求職者が結びつくように支援した。
- 講演会については、ちょうふ福祉実践フォーラムの中で「基調講演」という形で実施した。福祉職以外にも学生や学校関係者、医療関係者が参加した。

分析・課題

- ホームページにて市内の研修情報を一覽的に提供したことで、内容や時期の重複を避けられ、効率的な研修の実施を図ることができた。
- 資格研修を受講し、福祉分野の就労や活動へとつながる方が多く、資格研修が福祉についての最初の学びの機会となっており、市民への普及啓発的な役割を果たしている。

4 事業所あるいは職員間のネットワーク形成

結果の概要

- 実践報告を通じて福祉に関わる専門職や市民等がともに学び、モチベーションを高め、ネットワークを構築する機会として、ちょうふ福祉実践フォーラムを開催した。
- 昨年度は3つの分科会で構成していたが、参加者同士で交流する機会を創出するために新たにワークショップを企画し、分科会を2つとした。
- フォーラムの参加状況

日	時間	タイトル	講師・報告者	参加者
2/9 (日)	13:00~ 17:30	第3回ちょうふ福祉実践フォーラム「福祉現場の文化を創る担い手とは?~現	〈基調講演〉 「子どもたちの“楽しい”のために~公立中学校のチャレンジ~」 西郷孝彦氏（世田谷区立桜丘中学校長）	92

	場を変える、私 が変わる～	<p>〈実践報告〉</p> <p>第一分科会「新たな価値を創造するチャレンジ」 報告者：名古屋一氏（NPO 法人ファーストステップ）、山下千晶氏（社会福祉法人六踏園児童養護施設調布学園）</p> <p>第二分科会「人と人をつなぐチャレンジ」 報告者：杉山裕子氏（NPO 法人ちょうふ子育てネットワーク・ちょこネット）、池野上昇氏（居宅介護支援事業所ファーストケア調布）</p> <p>〈ワークショップ〉「よい実践を振り返る」 長沼葉月氏（首都大学東京）</p> <p>〈シンポジウム〉 ・「福祉の現場文化のチェンジ（変革）を創るチャレンジャー（挑戦者）とは誰か？～「私」から始まる「私たち」のチャレンジとチェンジ～」 ファシリテーター：結城俊哉氏（立教大学） シンポジスト：進藤美左氏（NPO 法人調布心身障害児・者親の会）小幡真也氏（フロリアル調布）遠藤嘉浩氏（調布市こころの健康支援センター）</p>	
合 計			92

分析・課題

- 基調講演では教育分野から講師を招いたことで、福祉以外の分野の実践から学ぶ良い機会となった。
- ワークショップを実施したことで、日々の実践を通じて参加者同士が交流することができた。

5 運営委員会

結果の概要

- 学識経験者、関係機関、各ネットワークの代表、当事者を委員として運営委員を開催し、事業運営についての意見交換を行った。

実績等

- 調布市福祉人材育成センター運営委員構成（敬称略）

任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日

氏 名	選出区分
結城 俊哉	学識経験者（立教大学教授）

伊藤 文子	市民有識者（調布訪問看護ステーション）
秋元 妙美	市民有識者（NPO 法人全国重度障害者支援協会 CIL ちょうふ代表）
進藤 美左	当事者又は家族会（調布市障害者（児）団体連合）
柰代 直美 →及川 正文（令和 2年2月～変更）	地域関係機関（調布ゆうあい福祉公社）
円館 玲子	地域関係機関（調布市社会福祉事業団相談支援事業所「ちょうふだぞう」）
栗城 耕平	調布地域精神保健ネットワーク連絡会
亀田 良一郎	調布市福祉作業所等連絡会
佐藤 京鼓	調布市地域包括支援センター連絡会
小幡 真也	介護保険サービス事業者調布連絡協議会
小島 敏則	東京都福祉人材センター
松井 佳孝	行政（調布市高齢者支援室）
石川 士朗	行政（調布市障害福祉課）
西田 雄次 →広田 茂雄（令和 元年9月～変更）	社協関係者（理事）
木内 洋	地域関係機関（調布市社会福祉協議会相談支援事業所「ドルチェ」）

○令和元年度調布市福祉人材育成センター運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	6/10（月）	平成30年度事業報告（案）及び決算報告、令和元年度年間スケジュールについて	14
第2回	9/30（月）	令和元年度上半期事業報告及び今後の予定、令和2年度事業計画作成に向けて	14
第3回	12/16（月）	9～12月事業報告、調布市高齢者家事援助ヘルパー登録者アンケート報告、今後の予定	12
第4回	2/20（月）	令和元年度上半期事業報告及び今後の予定、令和2年年度予算（案）について	12